

2023 春の戦跡見学会案内

3月26日(日) 9時00分発

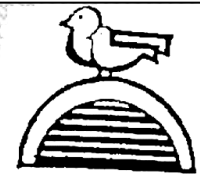
長かったコロナ禍規制を越え、久しぶりに「保存する会」恒例の春の見学会を計画しました。

今年は1945年3月24・25日の名古屋の三菱大幸工場を中心とした空襲の際にB29が墜落した現場をめぐる。見晴台考古資料館では高射砲陣地跡やB29墜落機体の破片等がご覧いただけます。

参加を希望される方またはご質問は、右記の連絡先(梅野・寺協)まで、なお参加に際してはマスク等のコロナ対策をお願いします。

定員20名(先着) 申し込みは3月20日まで(延期あり)

あなたがB29墜落の目撃者になる！ツアー



瀬戸地下
軍需工場
跡を保存
する会

会報

NO.174

2023年

3月10日

瀬戸市分町64-1

瀬戸市職労組 事務所

0561-84-4760

fax 84-4767

郵便振替口座番号

00820-9-105120

連絡先

事務局

梅野

090-3837-7050

寺協

0572-23-5899

fax 同上

携帯

090-6575-4370

Eメール

tera-m@ob.aitai.ne.jp



日程

道路・経過時間の状況により変わります。

瀬戸市駅西口前 9時00分発

瀬戸市駅前集合→守山区志段味

のぼくだん坂→守山区鳥羽見町

→昭和区村上小学校→瑞穂運動

場→見晴台考古資料館→地下鉄

藤が丘車両基地→瀬戸市駅前解散

16時00分頃予定

※当日の交通状況によりコース順、

到着時刻は変わります。昼食はコース

途中のコンビニで購入していただ

きます。お弁当持参可。



高射砲台座跡



B29 墜落機体破片

出発 9:00
愛知環状鉄道
瀬戸市駅
西口前

当日の駐車場は確保できかねますので、公共交通機関をご利用願います。



お詫び 173号で
名古屋市 大里豊さんと明記したのは「大里 斉さん」の間違いでした。お詫びして訂正します。申し訳ありませんでした

お詫び 173号で

2023年3月10日現在
142名 (+0-6) 過去に音信不明な方5名を含む

愛航研究会 野口哲央さん 5000円

多治見市 高木知文さん 2000円

名古屋市 大里 斉さん 3000円
松本八重子さん 3000円

阿久比町 田中邦雄さん 1000円

瀬戸市 小嶋俊博さん 1000円

2023年度 会費およびカンパを頂いた方

ありがとうございます
ごございました！

「2023年に思う事」②

事務局 芝田政春

一宮の防空壕は土を盛った土饅頭だから焼夷弾で蒸し焼き(酸欠)になるから追い返された同僚たちに、防空壕に入らず民家を蹴破って風向きを考え市街を抜け建物のない畑や田圃に逃げろと言つて別れた。その時、追い返された女工員さんが押し出された父の名を、動揺したのか不安そうに叫んだそうです。その事件が気になっているけど小学校の工場へ行くと、焼夷弾の直撃はないけれど類焼によるボヤ(小火)でその火を消火し、その後の被害はなかったそうです。後日工場長より砂糖が入った小さい紙包みをいただいて、ほめられたそうです。一宮の空襲の後片付けで気になっている石川県から来ている女工員(本当に石川県から来ているかは不明)さんを工場の数人と捜し回って身元不明の炭になった死体の中から焼け残っていた被服の一部や色柄や体形から推測断定した遺体をリヤカーに乗せて一宮の火葬場に行つたけれど中に入らず、その場で近くから燃える物を集め火葬にしようとすると燃え殻になるだけで燃え切らない。それで片腕の先を取って小学校の工場に戻り骨を洗って工場長に女性の実家へ送つてもらおうように頼む(送られたかは不明)。後に父が思つて分かつたのは警防団が父を通したのはその時に父が製品の資材を運んだり近くの農家から食材を徴発して工場作業員の食堂へ運ぶための「公用」の腕章を常に付けていた事に気が付いたのです。一宮の映画館が燃えてしまったので、一宮駅から笠松で竹鼻線に乗り換え終点の大須駅で下り長良川を渡船で海津へ渡り蛇池の養父の実家

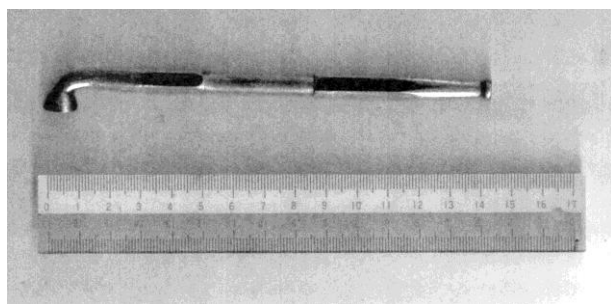
へとりあえず一宮の宿が決まるまで、通わせてもらう事に、身を寄せている養父母に一宮空襲の事を報告する。

やがて一宮の小学校を借りた工場で敗戦。各人帰るように支度をしていると朝鮮から来た職工に呼び止められ「食事は出るのか？」と聞かれ、食事は用意していたので食べさせて下さいと言つて帰る。翌日後始末で一宮に行くと、行くあてのない若い者と帰るにも遠い朝鮮から来た職工さんが、うろろるととりあえず食べ物と言う

事で食料徴発の伝票を持つて農家を廻るが敗戦を知っているので出してもらえないので養父母が身を寄せている蛇池の実家に頼み無理を言つて、当面の食材を分けてもらった。小学校の工場では機械を接収される前に今有る材料で何か商える物を作つて売ろうと言う事になり、作つては農家へ食糧と交換して遠くへ帰るためのお金を稼ぐために市場で売つて注文までくるようになった。いつまでもいられないので材料があるだけお金に換え遠くの帰郷順の割合で金を分配し、それぞれ帰つたそうです(本当に帰つたかは不明)

父は岐阜の蛇池に身を寄せている養父母の所に戻り、養父母に一宮の小学校の工場の後始末に行かせてくれた事、初めに食材を分けてもらえた事の感謝を伝えたところ逆に次の話をしてほめてくれたそうです。

「この前の日露戦争で日本に敗けたロシアは捕虜になる前に現地のロシア軍に雇われていた人達に残っていた資産をそれぞれ分配して捕虜になつたそうだ。敗けたから後は知らんではなく満足ではなくても義理を果たそうとしたそうだ。内緒だが



それを貰った日本人もいたそうだ。お前は良い事をしたな、これこそ勲章ものだ。片端になるような事はだめだ」

このロシアの話は明治37(38)年、ロシア軍の捕虜が名古屋の東本願寺別院、西本願寺別院、天寧寺、長栄寺に収容されていたのは事実。しかしその時養父はまだ小学生の子供です・・・

父が養父に引き取られ、それから養父に連れられ新出来の家を出て車道(道路名)を南へ百人町、黒門町、千郷町、千早鶴舞から西に古渡へ向かつて養父と一緒に東本願寺名古屋別院へよく遊びに行つたそうです。そこには養父が名古屋に奉公に出てきていろいろ相談に行つた親戚の女性が働いていたそうです。父はロシア軍の捕虜の話はその女性から聞いた話ではないかと納得していました。

私が父から聞いた百の内のわずかな話を少しづつ確かめながら繋がつた物語をしてみました。今思う事は敗戦後の20歳で男女に選挙権が与えられ政治参加ができて、一揆や暴動を起こさなくてもよくなった事。近年、日本の科学者がノーベル賞を受賞されてわりと私なんかでも科学的思考など仮定推測から始まり実証する数学的公理法則原理を満足させて理論となる。しかしカルト宗教の教祖が「私が宇宙のすべて」とかいうオカルト的原理を人はわりと簡単に不思議な話にひかれるんですね。

父が敗戦時、一宮の小学校の工場でみんなで作つた鉄製のキセル(右上)。父が記念に持っていた。

以上

地域を学び・地域で学ぶ

村瀬紀生さん講演③



先号よりつづく

この保存する会の活動は冬に見学会をしているが、一番いい試みだと思ふ。しかし担当者は高齢者70を過ぎていて。地元の人ではないので、あと10年、ここにこられるか心配である。山の「平和への散歩道」を歩くことは地域への繋がりになると想われる。

先日、私の知り合いの「地理学」の先生と「地域づくり」について話をした。「地域づくり」は、地域をいかに活性化させるか、地域でどんな目的をもって活動するのか？

その課題をどう地域に浸透させるかなど・・・。そんな時に保存する会の活動がNHKの「東海どまんか」にとりあげられた。梅野代表を中心にして会の事務局の方がテレビに映っていた。ここで私は思いました。この企画を利用すればいい。

「梅爺さんと歩く平和の散歩道」と題して山のなかに散策すれば地域の人に知られまた地域の人たちとの触れ合いも生まれるのではないか。地元の人々の行動が大切であると考へた。

「地域を学ぶ」ためには地域の人に具体的に学ぶ必要がある。「地域学習」というのは自然環境で学ぶことであり、地域の人に学ぶことである。小学校3年生に「伝統文化継承」の学習教材がある。地域に文化的な伝統芸能がない場合は教科書から学ぶか映像による学習になる。伝統文化は地域の中に人と人の繋がりが生まれ継承されていく。情報化が進み、映像からその地域の特性はわ

8月6日(土)に開かれた保存する会
第31回総会の記念講演会での村瀬
紀生さんの講演内容を掲載します。

かるが一定の視点でしか伝えられない。地域学習では、現地に出かけ、現地で自分の五感を使ってその場をしっかりと見て観察や体験を通じてその地域を心に感じることが大事である。

映像やその画面を見るだけでは人の息遣いを感ずることはできない。私の教育の中に「空間認識」というものがある。横軸を歴史認識とし縦軸を地域認識とするとそこに交わるところが「空間認識」となる。それをいかにして教材化していくかが私のテーマになっている。

そしてひとつの「枠」にとられず発想を変え工夫とアイデアも必要である。時代が移り変わることで「教科書」が変わる。地域や人の流れも変わる。「教科書」というのは大学や高校の専門家の人たちによって作られるが、社会に色々な出来事があるとそれが文章化され、それが文科省の検定を通ると教材となり「教科書」となって出来上がっていくのが2年か3年先。

社会科学のデータは2年か3年前のもの。そうすると時代の流れから少しずつ遅れていく。SGDSの話もそうである。国連で10年も前から世界の国々で議論されている。

現場で働く人達が今の社会の出来事を子どもたちに「どうする」を伝えるかを考えなくて行けない。文科省が数年ごとに教育の方針を現場に伝達する。「ゆとり教育」「脱ゆとり教育」「総合学習」「アクティブラーニング」など「世論と現場の状況を踏まえて」文科省の大義名分の変更の度にその度に教育現場は「何をやる」・「どうする」の展開で右往左往する。まとまるまでに時間がかかる。結果を優先して取り組んだことの分析が曖昧である。基礎知識をきちんと教えてあげない限り学力は伸ばせない。

私の教育実践である学習発表会で行った「ぼくらの町にも戦争があった」をお話しすることになります。

大阪書籍の教科書で「空襲の中のくらし」で「戦争が長引くにつれて生活に必要なものが乏しくなり米や衣料だけでなく日用品のほとんどが配給で割当てられるようになりました。国民は「欲しがりません勝つまでは」の掛け声のもとに・」とあるが、これは45年前の教科書。今はもっとあいまいな表現になっている。

創作劇で「ぼくらの町にも戦争があった」というのは2本目、1本目は「15年戦争」で広島原爆をテーマにしたが、あまりにも辛辣すぎて1年生や2年生の子たちが「こわい！」と言って評判が悪かった。

その後で、「ぼくらの町にも戦争があった」と地下工場のことをメインにした。この学習発表会は2月で、卒業間近。受験生もいた。演劇の構成は舞台の前だけでなく側面も使う。学習の知識があるからと言って表現力が優れているとは限らない。一人一人の個を見つければいい。道具作りが好きな人、演劇でいける人、と適材適所で行った。当時は戦争の掘り起こしという事で、歴史地理教育という学会誌にも取り上げていた。

そこにも書いたが、「聞いて、見て、調べて、感じて書く。」というのがスタンス。

その場を見て、いろんな人に聞いて、図書館などで調べて、感じる力は表現力なので、それを演じるということ。次にその話の中で学童疎開のことが出てくるが、地下工場は工場疎開。

話は戻るが、徳川の御三家の筋でこの地下工場がえ選ばれてきたのではないかと思っっているが、もちろん利便性もあったと思う。その時の交通の便もあっただろう。ところが、当時の軍部の考え

方は大義名分ではないだろうか。日本人は大義名分に弱い。そうすると尾張藩の御三家のおひざ元。その当時、陶貨も作られた瀬戸ならいいだろう。文句ないだろうと軍人が考えそうなこと。そんなことを「ノモンハンの夏」半藤一利著を読んで思ったが、そういうところにもずっと地域性のもが出てきているのではないかと思う。だから一概に愛知航空機がここに作られたわけではなく、人の移動とか物資が運びやすい。高蔵寺から尾張横山駅（現 新瀬戸）から物資を運ぶことを考慮して、大義名分でおひざ元ならいいだろうということになったのではないかという気がしてならない。

（講演以上）

質疑

感想1…学校はなんのためにあるのか。庶民の実体験は大きい学校は社会のための学校。学校は子どものためにあるのではなくて子どもを大人や親のために行かせていることが大きい。勉強の自身がわからないくても過ぎていく。現在の学校はブラック企業化して平和教育などやる時間はないという現状がある。今の学校から新しいことをやっていくことは無理だが、村瀬さんがおっしゃっていた「梅爺さんと歩く」というような楽しいイベントをやっていくことで新しい平和教育ができるのではないか？と思った。

村瀬…

一つ付けたしだが、もしもお孫さんがいたら、教科書を借りて見ていただくと、けっこう面白い視点に気がつくと思う。教科書の中身は「経営者側」に立っている。たとえばスーパーマーケットに行くという内容が3年生にあるが、「お店では、こういうことをやっています。」とかの内容。昔

の教科書には「伝統産業」とかあったが産業の衰退とともにいつの間にかなくなった。当時は瀬戸の産業が全国に発信されていた。今は全然ない。

感想2…

私は学校は軍隊の一部かなという思いがある。戦後間もないときは、人格形成が教育の主流だったが、今は教育基本法の改正とかで、軍隊の方に向っているのではないかと感じる。今回の講演で一番心に残ったことは「どういう視点で教育するか」というところ。自分の頭で考えてどうしていくのかと行動する教員が多くなると、ますます軍隊化していくのではないかと思う。それで「視点」が大事だと思う。

感想3…

日本の教科書は世界的にみて特殊なものなのかと思っっている。戦前の軍国主義が悪かったという教科書が時代とともに、あまりに「卑下」するといけないのではないかという感じになってきたのではないかと思う。それでこれからどうしていくべきなのかとお話を聞いて考えたのだが、自分の頭で考えて行動できるような人が今の日本では必要ではないかと思っ、いろんな人の意見が判るような教科書がほしいと思っった。

村瀬…

「男はつらいよ」の映画の中で「なんで人は勉強しないといけないか」という質問に「世の中でのいゆる勉強していくとこれからの世の中のためになるんだ。だから勉強しないといけないんだ。おいちゃんのようなバカではないけないんだ。」というセリフがあるが、知識力よりも、なぜ、何をどうするかと考えると、分からなかった国語辞典でもいいから何が書いてあるのかというところからやれば良いと思う。何も人のまねをしなくてもいい。

以上

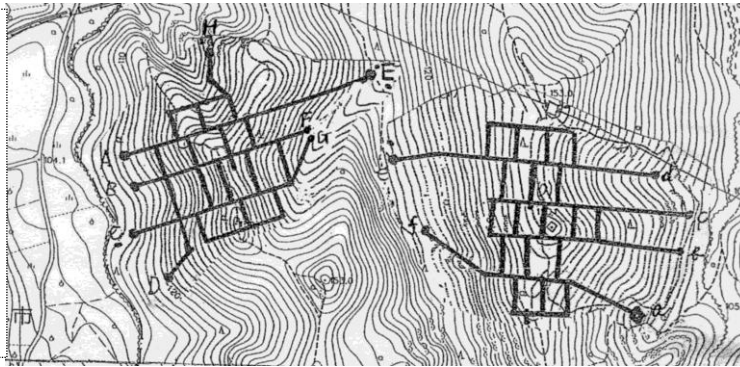
調査報告



地下壕は溶結凝灰岩層でまるでコンクリートを流したようにしっかりしています(右)。地上部にもトイレやふる場跡などの遺構がたくさん残っています。(左)

10月16日(日)三重の岩脇さんのお計らいで二上山どんづる**峯地下壕**調査にご同行させていただきました。地下壕はNPO法人「平和のための香芝戦争展」の西島さんに案内していただきました。旧陸軍・航空総軍の戦闘司令所として、1945年6月ごろから建設が始められた。朝鮮人兵士を含む約300人が動員され、終戦の日の8月15日まで工事が進められたといひます。東壕と西壕に分かれており、二つを合わせた全長は計約2キロ。高さ約3メートルのアーチ型トンネルが、梯子(はしご)状に掘られている巨大地下壕です。地上にも当時の施設遺構が点在し、名古屋市学芸員の伊藤厚史さんが精力的に附近を探索し、数カ所の陸軍陣地遺構を発見されました。(寺脇)

東の壕(右側)は京大の観測所があり入れません。



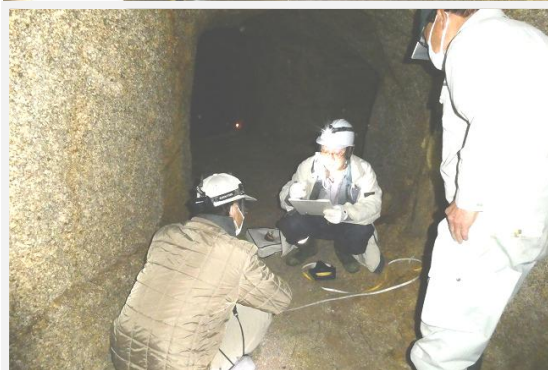
谷あいの奥(北側)に疎開工場を建設する予定だった。



谷あいの東側はトロッキ道として整備された



南側の入口



伊藤さん(奥)、山田さん(左)、右側は地主さん

2月6日 山田富久さん(地名研事務局長)の計らいで旧豊田製鋼の疎開工場跡(豊田市西中金駅(廃線)東方)調査に参加しました。伊藤厚史さん(見晴台学芸員)の調査で風化花崗岩に開けられた地下壕は疎開工場関連の防空壕であることが判明しました。壕は全長12m、奥行き6m、高さ・幅180cm。入口のうち南側のものを昨年山田さんが発掘。今回の調査で2本目の入口を発掘しました。(寺脇)

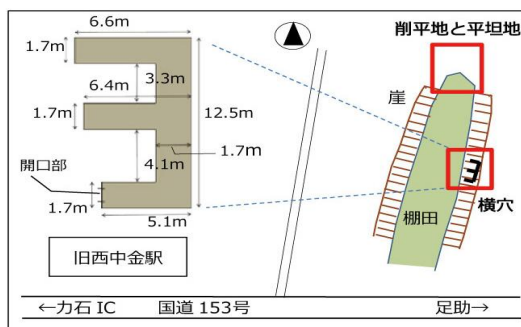


図 工場疎開跡の位置と横穴(概略図)

「豊田市郷土館だより」より引用
図の作製は山田富久さん(元愛知製鋼職員)

1月・2月の活動報告



1月は2回、現地見学会を行いました。
1月22日には生協労連 東海地方連合会の16名の方々が東海各県よりご参加していただき、熱心に見学されました。ありがとうございました。(写真左、下)



1月29日は恒例の地元向けの見学会を行いました。
今回は、春日井や名古屋の方からも参加していただくとともに、地元の小学生も参加して総勢27名もの大所帯となり、見学会後の意見交換会もいろいろなご意見が出て、もりあがりました。みなさまご苦労さまでした。

(寺脇)





2月23日(木)瀬戸市文化センターで、瀬戸こどもと教育9条の会第18回総会に招かれ「戦争は教育からはじまる」と題して講演をしました。戦時中の3点の掛図の教材(『初等科修身』『世界興亡図表』『大東亜戦争要図』)をはじめ瀬戸地下軍需工場跡を保存する会の活動、戦中と現在の教育についてなど貴重な資料の紹介を行いました。(寺脇)

世界興亡図(昭和17年)(右11部拡大)
世界の歴史を並列で列挙したもので、中央部に日本の歴史を神話から続く歴代の天皇の系譜を表しているが、どの国よりも古く表現してある。表の中では奈良時代以前を「大和時代」南北朝時代を「吉野時代」江戸時代末期を「幕末時代」と記してあり



初等科修身掛図(昭和17年)より
第4図宮城正門を背景として「君が代」と楠木正成像 第5図 靖国神社 掛図は全体で20枚あり、神の国日本のために尽くすように洗脳していく内容になっている

岐阜市平和資料室にあった慰安袋中の兵隊さんへのはがき (国民学校低学年)

大観国民学校
兵隊さん あついのにごうらうでございます 兵隊さんあのねえみんな元氣ですのよそして朝ラヂオ体操に行つてからだをきたへていますのよ戦争に行つてしな人のくびを取つておみやげにして持つてかへつて来て下さい、そしてみんなかへるとばんざいととなへませうね お宮へまいつておいのりいたします
ではさようなら
〇〇〇〇

昭和15年大阪市立市岡第三尋常小学校の「国史」第七回試験答案より一部抜粋(現代仮名づかいに変えました) インターネットコンテンツより

問9
(イ) あなたは支那人に対してどんな心持でいますか
答 僕らは支那人を導いて正しい道を教えなければならぬ先生です。それには先ず仲良し互いに手を握つて防共力を尽くさねばならないという心持ちでいます。
(ロ) それはなぜですか
答 此の東洋を明るくする国は日本より外にありませんだから日支一体となって早く赤をのぞき平和なよい国にしなければならぬからです。

これからの活動予定(3月~9月) (未定も含む)

- 3月26日(日) 名古屋方面見学会
- 6月11日(日) 渡辺哲国氏 講演会「愛航研・晴嵐修復の全貌」文化センター 13:30~
- 7月22日(土) 戦争体験を語り継ぐ会 第2回 文化センター22会議室 14:00~
「瀬戸市顕霊誌(1995瀬戸市遺族会連合発行)にみる戦没者1175名の記録」 寺脇
- 8月? 第32回保存する会総会
- 8月10日(木)~13日(日) あいち平和のための戦争展2023 市民ギャラリー一矢田
- 9月16日(土)~18日(月祝) 戦跡保存全国ネットシンポジウム「横須賀おっぱま大会」

写真で観る晴嵐 28号機修復の全貌 第7話

愛知航空機研究者・渡辺哲国

7. 修復に着手

1989年秋、ビル・リースは保存棟から晴嵐 28号機の胴体を搬出し各部の調査を行った。

○胴体左翼ウイングレット部に 12.7mm 機銃の弾痕が発見された。弾はここから入り、左翼折畳展張用油圧シリンダーの中央下部にて止っていた。

○アツタ 32 型 (改) 発動機は長期間の屋外保管にも関わらず、発動機覆い (カウリング) のおかげで腐蝕は少なかった。

○胴体は外部、内部とも腐蝕が進行しており、計器、装備品類には欠品が目立った。

○胴体内部から未使用のリベット多数 (S サイズ紙コップ 1 杯位) と針金、電線類を巻いた木片、肉抜き時の円形アルミ板など不用残留物が発見された。

(写真参照)

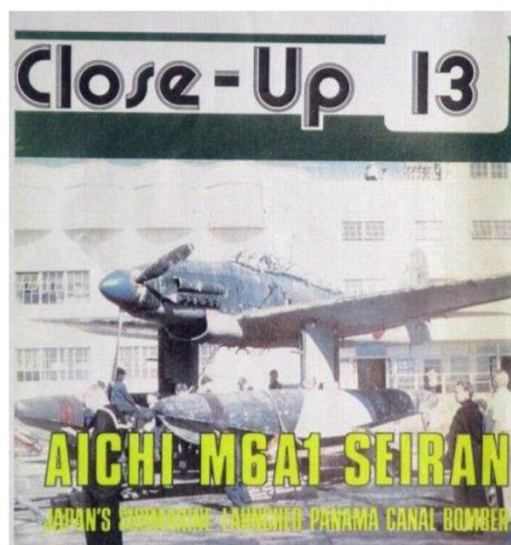
始めにアツタ発動機が胴体から外され、ボアスコープ (内視鏡) による内部チェックを受けたが、程度は良く、分解は不用と判断され、外部洗浄と小規模補修のみ行われた。胴体は修復のために専用で作られた架台 (小車輪付) に据付けられ、洗浄の後、腐蝕防止と防護処置がとられた。

1990年、晴嵐プロジェクトにマット・ナザロが入り、ビルと2人のチームとなった。マットが最初に手掛けたのは徹底した状況の把握と記録であった。スケッチとスチールカメラ、ビデオカメラを有効に活用し、計器盤、各管制器、装備品、操縦装置などの記録が行われた。この記録は継続的に行われ、各装備の修復が終了し、再組付けする際には非常に役に立ち、資料としても貴重である。特に計器盤や管制器などに書かれた日本語は消えかかったり、一部欠落があり、この時期の記録はラストチャンスと思われた。

精度の高い修復を進めるうえで必要なのは、図面、写真、取説、工作標準などの技術情報であるが、軍機の秘密兵器・晴嵐について入手できたものは皆無に等しかった。当時、マットが所有していた資料は、モノグラム社のクローズアップ N o 13 晴嵐と戦後日本で出版された書籍類のみであった。また、PEGF

に日本語の判る人は居ないため、機体各部に書かれた日本語は意味不明のまま、忠実に写実された。機体の構造は任務を反映し、複雑、巧緻であり、航空機修復の専門家でも、理解出来ない装置があった。また、戦後の誤った定説、すなわち、飛行中の浮舟と垂直尾翼上端部の投棄可能説には最後まで振り回される結果となった。

次号へつづく



①モノグラム社のクローズアップ N o 13 晴嵐



②分解され屋外保管中の胴体



③分解され屋外保管中の胴体



④修復準備の為、屋内に運び込まれた胴体



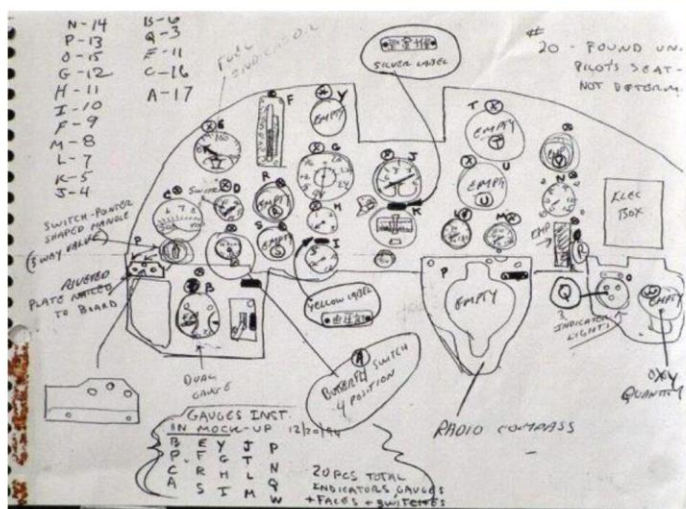
⑤洗浄前の胴体



⑥洗浄中の胴体

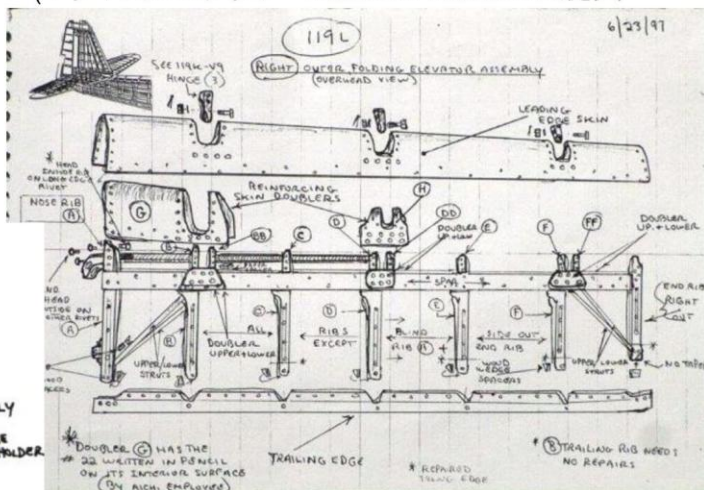


⑦胴体から外され、洗浄されたアツタ 32 発動機



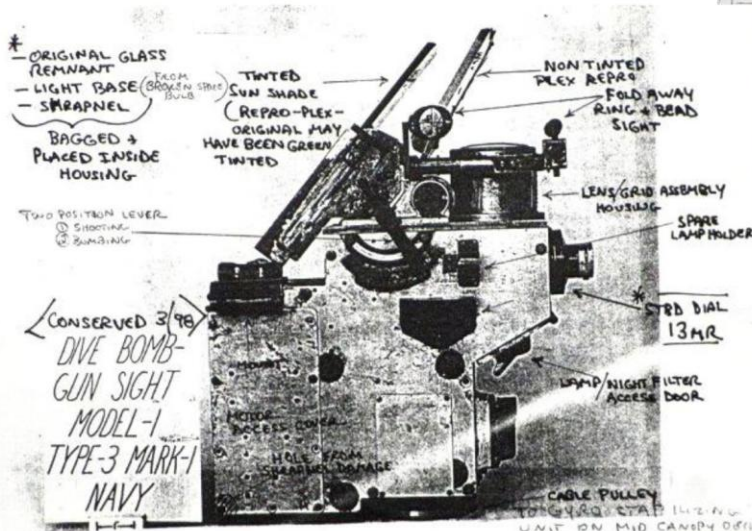
⑧計器板

(マツ氏のスケッチ・Matthew Nazzaro 氏提供)



⑨右昇降舵折畳展張部

(マツ氏のスケッチ・Matthew Nazzaro 氏提)



⑩三式一型射爆照準器

(マツ氏のスケッチ・Matthew Nazzaro 氏提供)

各地からのおたより

コロナ禍のために無期限延期になっていた

第2回愛航研究会

「パナマ運河攻撃機・晴嵐 28号機修復の全貌」を

6月11日(日) 13:30~16:30

瀬戸市文化センターで開催することになりました。詳しくは次号(5月号)でお伝えします。

渡辺哲国さんの写真で観る晴嵐28号機修復の全貌、興味を持ち次回を楽しみにしています。
愛航研究会 野口哲央



会報送付くださりありがとうございます

愛知航空機瀬戸疎開工場 100 地区①のところで現緑公園からミソノピアの平坦地は「青池」を埋め立てたものとありますが、続いて緑公園の西斜面は青池の堤というのは疑問に思います。

『瀬戸南部土地区画整理事業竣工記念誌』p41に「山土を切り崩していたところ黒雲母花崗岩の岩盤が現れ市と区画整理組合は、これを公園の石垣に活用した」とあります。岩盤を砕き、三つの公園と調整池に使ったわけです。

上記記念誌p14の地図を見ると青池の跡が白く見えます。現緑公園の処までは掛っていないと思うのですが。

2023年1月18日受け

瀬戸市 加藤昭子

会報173号が届きました。ありがとうございます。戦跡遺跡の保存に精力的に取り組まれている姿に頭がさがります。

大兄の書かれた小学校にある戦争遺跡群の記事を読みました。当局に付度する校長の姿勢は問題です。戦跡見学はどうして政治的なのでしょうかね。説明してほしいものです。

ドイツ政府はナチスの戦争犯罪にどこまでも向き合っています。被害者がもういいよと言うまでこの謝罪は続くのです。だからこの謝罪は終わりがありません。南米に潜伏していたナチス犯罪者(100歳に近い年齢)を捕まえて、裁判にかけ懲役5年の有罪判決をくだしています。もう十分に高齢ですからそのままにしておいても、なくなることはわかっているのですが、それでも有罪にする姿勢が国際的に評価されているのです。

広島市

船津 宏

日本の戦争遺跡

埋もれさせない歴史の真実
—瀬戸地下軍需工場—
愛知県瀬戸市

開工場は瀬戸の北部、水野地域のトンネル工場群は零地区、南部の愛野地区の礫土半地下工場群は百地区と呼ばれていました。米軍爆弾調査団報告では、全体の雇用者が7395人、機械数は5区5つのトンネル工場の原料である粘土発掘消滅しました。現代見は、水野小学校裏の1限られています。なお、尾根には水槽跡も残つ

○瀬戸地下軍需工場とは
瀬戸市水野地域にある地下工場跡は、名古屋市港区にあった「愛知航空機永徳工場」の疎開工場跡です。瀬戸工場は、1945年2月に本部事務所を市内陶原町の瀬戸陶磁器組合の中に置き、操業を開始しました。疎

水野の工場は丘陵地4kmの5つのトンネル(1~5区)で、爆撃機の部品を作っていました。入口の大きさが高さ・mほどしかない狭い・入口から10mはコンクリートで、現在入口付近が見

は5か層で、万年程の地層で、いらないものもろくす。戦後には戦後を除き落してした。

月刊社会教育誌 2月号(「日本の戦争遺跡」のコーナー)に掲載されました。

編集後記

ロシアのウクライナ侵攻が解決のめどもたたないまま1年が過ぎました。有無を言わさぬ大国のエゴはとどまるどころを知りません。ひるがえって国内でも、中身の見えない軍拡・増税の「あらし」が近づいています。テレビを見ていると、緊迫感のない内容ばかりで恐ろしくなります。戦争の惨禍は爆弾を落とした側にも容赦がなかったことを「3月26日の戦跡見学会」でお確かめください。

2023年3月8日(T)